



痛い！かゆい！気をつけたい虫刺され

屋外で活動する機会が増え、肌の露出が高くなるこの時期は要注意。



屋外に出る機会が増え、薄着になるこの時期。気をつけたい事の1つが虫刺されです。蚊やブヨ、ハチ、ムカデ、チャドクガ、アブ、マダニなど夏は虫が多くなる季節です。今回は中でも毒を持つ虫に刺された時の対処法を紹介します。



チャドクガ

チャドクガの幼虫には「毒針毛」と呼ばれる太さ約0.1mmの微細な無数の毛に覆われており、人が近づくと毒針毛が抜けやすくなり、弱い風でも一斉に飛び散ります。

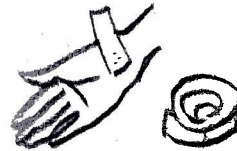
そのため、近くを通っただけで刺されたり、干してある布団や洗濯物に刺さり、気づかずに触れて皮膚炎を起こしたりする事もあります。

気をつけたいポイント

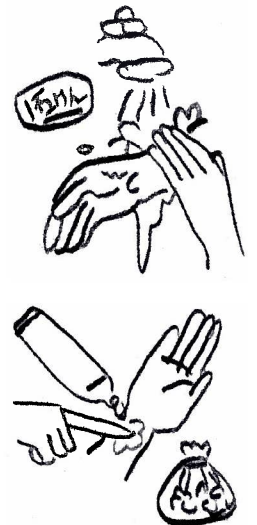
- ツバキ、サザンカ等の植物の葉の裏に群がります。
- 殺虫剤で駆除後も、死骸から毛が抜けやすいので気をつけましょう。

手当ての仕方

- ①患部に粘着テープを貼り、毛を取り除いたり、流水と石鹸で洗い流します。



- ②かゆみがある時は、ステロイド外用薬を塗り、腫れたりひどい場合は患部を冷やして皮膚科へ。



ハチ

人を刺す主な蜂には、アシナガバチ、スズメバチがあり、ミツバチも刺す事があります。

はじめて刺された時は、毒液中の発痛ペプチド等による一時的な痛みや発赤のみですむ場合があるが、2回目以降はアレルギー症状が加わり特に注意が必要です。人によっては「アナフィラキシーショック」と呼ばれる、刺されて5～30分後に蕁麻疹や呼吸困難、顔面蒼白など生命に危険が及ぶことがあるため、この場合は直ぐに医療機関へ受診した方が良いです。

アナフィラキシーショック

(2つ以上あったら要注意)

- 蕁麻疹 血圧低下 意識障害 息苦しさ
- 腹痛 下痢 吐き気 全身のむくみ

手当ての仕方

- ①針が残っていないか確認し毛抜きや粘着テープで、針を抜き、指でつまんで血液と一緒に毒をだす。吸引器を使う方法もあります。



- ②患部を流水と石鹸で洗い冷やし、抗ヒスタミン薬やステロイド外用薬塗る。腫れがひどく、発熱や倦怠感があれば病院へ。



クラゲ

虫では無いですが、海水浴で気をつけたい生き物。クラゲの触手には毒をもった刺胞がついており、刺すと毒素を放出します。

手当ての仕方

- ①皮膚に付いた触手を海水をかけて(真水はダメ)タオル等使って取り除く。
- ②患部を水や氷で冷やして、抗ヒスタミン薬やステロイド外用薬塗る。ひどく刺された場合は皮膚科へ。